

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

自 己 評 価					学校関係者評価		次年度 の課題	
NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	達成状況	達成度	成果○と課題●		意見・要望・評価
1	学校経営	①学級減をはじめとする学校変革期に向けて体制を整備するとともに、理数科の特色づくりを推進する。	○55分授業体制や時間割編成等の諸課題を検討し、次年度からの円滑な移行に備える。(教務) ○「科学者の卵養成講座」「国際科学オリンピック」等、外部で開催される講座、コンテストに積極的にチャレンジさせ、学問・研究に対する関心・意欲の高揚を図る。(理数) ○今年度から実施される新教育課程が目指す理数科生徒像を理解させ、普通科とは異なる生活・学習パターンをしっかりと定着させる。(理数)	・日課表、考査時間帯等の変更の見通しが立った。行事予定は、現在策定中。(教務) ・「科学の甲子園山形県予選会」には理数科の生徒を含む生物・科学部が参加し、「科学者の卵養成講座」へのチャレンジ、「サイエンスキャンプ」「医進塾」への参加など積極的姿勢が見られた。(理数) ・入学後の集会やHRを利用して理数科生徒が目指すもの、日々の生活で必要なことを指導してきた。(理数)	B	○生徒は目指す理数科生徒像を理解し、近づくための努力をしている。(理数) ○次年度からの推薦入試の廃止、一般入試における選抜方法の一部改定等、理数科の特色づくりが進められた。(理数) ●55分授業への移行に伴い、ぶら下がりが増え、生徒会活動や会議の設定が厳しくなっている。行事の精選が必要。(教務) ●外部の講座、コンテストにチャレンジする生徒への指導・サポート。(理数)	・理数科の「筑波研究学園都市研修」で学んだ経験は、生徒に大きな刺激となっているようである。 ・生徒たちが、理数科だけ特別扱いを受けているととらえないような形で特色づくりを進めてほしい。	・1時限55分授業の新しい日課を円滑に実施する。 ・2020年度の本校入選の改革及び海外研修旅行の実施に向けて遅滞なく準備を進める。 ・校務支援システム及び校内グループウェアの導入を円滑に進める。
		②PTAや同窓会等、外部団体との連携を密にするとともに、積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりを推進する。	○学年通信等の発行を通して学校生活の様子や各種情報を提供するとともに、学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会や研修会などを開催し、保護者との連携を密にする。(1・2・3年) ○ボランティア活動を含めた校内外の諸活動を自主的、積極的に情報発信して、より多くの人に知ってもらうように努める。(生徒) ○「南高ブログ」を定期的に更新し情報発信する。年間アクセス数30万件を目指す。(生徒・総務) ○保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的参加を促すなど、保護者との連携を推進する。(総務) ○同窓会事務局との情報共有に努める。(総務)	・1年では学年通信14号、進路課通信14号を発行(2/13現在)。2年では学年通信を18号まで発行し情報発信できた。その他、進路講演会や学級懇談会等をほぼ計画どおり実施できた。3年では、2月中旬までに学年通信を16号、学年進路課通信を31号発行することができ、進路指導等に大きく役立った。 ・学校ホームページをリニューアルした。また、各部からの要請を受け、ブログを定期的に更新し情報発信できた。(総務) ・PTA広報紙「南高だより」については、保護者の担当を主体にし、年3回発行できた。 ・PTA総会の出席率が平均70%以上と高く、また各学年の行事への保護者の出席状況も良好で、連携がとれた。(総務) ・同窓会総会や創立記念式典等、同窓会と連携しながら進めることができた。(総務)	A	○毎月の学年通信や進路課通信の発行を通じて、様々な状況を保護者に提供することができた。また学級懇談会や進路講演会などを通じて、保護者との連携を強化することができた。(1年) ○ほとんどのクラスで保護者懇親会を企画・実施し、学校や家庭に関する様々な情報を共有することができた。(2年) ○時期に応じた情報提供、啓発等行うことができた。(3年) ●学年通信や進路課通信については、生徒に配布する場合と、通知票と一緒に郵送する場合があるが、生徒への配布の場合、保護者まで届いているか不明である。(1年)	・保護者との連携や情報共有は今後とも重要性が増すので、しっかり取り組んでほしい。 ・学年通信等が保護者に届いていない場合もあるようなので、何らかの工夫をお願いしたい。	・学年通信等の配付物が保護者に確実に届くように、学校のホームページやメールを活用する。 ・保護者からの学校や教職員への電話連絡については、理解と協力を得ながら時間設定等を行う。
2	学習指導	①高大接続改革及び次期学習指導要領を見据え、主体的、対話的で深い学びの実践と多面的な評価の研究を推進する。	○大学入学共通テストを見据え、国語・数学の記述力および英語の4技能を意識した授業を実践する。(1年) ○研究授業や授業見学週間を活用し、教師の指導力向上を図る。(教務)	・生徒の学びが深まるよう、工夫を重ね授業を行った。タブレットをL.L教室に導入し、英語の4技能の向上に努めた。(1年) ・教科が中心の研究授業、各自が個人的に進める授業見学週間とも無事終了した。(教務)	B	○タブレットの導入により、Speakingの指導及び評価が効率的にできるようになった。(1年) ○自分の教科だけでなく、他教科の授業を見ることで、様々な授業スタイルを見る良い機会となり、お互いの刺激になった。(教務)	・新しい入試のことは保護者の立場でも気になっているので、適切な対応をお願いしたい。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善や総合的な探究の時間の充実を図る。 ・エンパワーメントプログラムを円滑に実施する。
		②家庭学習時間を確保させるとともに、個に応じた指導により、生徒一人一人の学力向上を図る。	○授業第一主義の趣旨を十分理解させ、予習、復習を徹底して授業に臨ませるとともに、課題に取り組ませる。1年は平日150分以上、休日240分以上、2年は平日150分以上、休日270分以上、3年は平日270分以上、休日480分以上の家庭学習時間確保を指導する。(1・2・3年・理数科) ○学習時間調査や成績の分析、面談等を通して生徒の生活実態の把握に努め、効果的な学習指導を行う。(1・2・3年) ○学習習慣の確立および集中学習による学力の向上を図るため「学習合宿」を行う。(3年・理数)	・学習時間が年間を通して増加しなかった。(1年) ・授業における反応や取り組む姿勢はおおむね良好である。(2年) ・4月の学習時間は1日平均150分で例年並み。8月下旬が280分で例年より30～50分ほど少なく、9月下旬のテスト前で370分と例年より40分ほど増えたが、必ずしも学習時間が十分とは言えなかった。学習合宿自体はよかったと思うが、戻ってきてから家庭学習の習慣にうまく繋がられなかった生徒もいた。(3年)	C	○学年の熱心な指導のもと密度の高い学習活動が展開され、集中力を持続させ学習する経験を積ませることができた。また、OB講話はリアルな内容で生徒たちには良い刺激になった。(理数) ●再三にわたり、日々継続した学習を求めてきたが、増加には至らなかった。学習することの意義や大切さなど根本的なことを訴えつつ地道に指導を継続するとともに、家庭でのスマホ使用時間の時間把握などを通じて、学習時間の確保に努めさせたい。(1年) ●学習時間は不十分で科目のバランスが取れていない者が多い。(2年) ●学習自体に時間がかかり、かけた分の成果が出たとは言えない状況であった。(3年) ●部活動が生活の主である生徒が多く、授業の準備にかかる時間がどうしても少なくなる。時間の使い方などもっと指導していく必要がある。(理数)	・塾に行く生徒が少ない分、学校で放課後講習などを行って生徒の学力向上に努めている様子が見られる。 ・働き方改革や学級減に伴う教員の定数減の影響により、学力が低下しないかという心配がある。	・働き方改革を進めながら学力向上を目指すために、生徒の主体的な学びを促す指導への転換を図る。 ・生徒の学習時間確保のために、タイムマネジメントを徹底させる。

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

自 己 評 価				学校関係者評価		次年度 の課題		
NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	達成状況	達成度		成果○と課題●	意見・要望・評価
3	進路指導	①高い進路目標を掲げ、国公立大学及び難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。	○未来手帳やe-ポートフォリオを活用し、生徒のキャリア育成に資するとともに、自己の在り方・生き方を考える機会と情報を与え、進路意識を高揚し、進路目標を確立する。(1年) ○将来を見据え、進路について考える機会と情報を与え、各自の職業観に基づいた進路目標を明確にさせる。(2年) ○国公立大学合格者数170名以上、医学部医学科、難関大30名以上を目指して、個々の進路選択の可能性を広げる指導を行う。(3年・進路) ○職業講話、大学出張講義、進路講演会、OB学生講話などを実施する。(進路) ○医師体験セミナー、理学療法士体験、ふれあい看護体験などの各種体験学習等に積極的に参加させる。(進路) ○1年生を対象とした山形大学理学部との連携事業「高大連携実験講座」を、新たに2年生も加えて実施する。(理数) ○筑波研究学園都市研修を1年生対象に行う。(理数)	・「今未来手帳」の購入、スマホを使ったe-ポートフォリオの活用、エンパワーメントプログラムの実施(110名参加)(1年) ・各自の希望学部・学科の講義を体験する「大学出張講義」や「志望理由書」の添削指導を行った。その他にも機に応じた進路講演会を通して進路目標の確立に努めた。(2年) ・作年内のAO推薦で16名、2月13日現在のセンター利用AO推薦で13名の合計29名が国公立大学に内定した。(3年) ・職業講話(9/12)、大学出張講義(9/19)、進路講演会(6回)、全て実施できた。医師体験セミナー(3名)、理学療法士体験(4名)、作業療法士体験(6名)、ふれあい看護体験(5名)に参加した。(進路) ・駿台予備学校・河合塾の現職教員セミナー派遣研修(7名)、先進校視察(4名)、他、進路研修会、教科指導研修等多数実施。(進路)	B	○手帳を全員で購入し、前半は記入指導も行い、自己管理能力を育成しようとした。まったく活用していない生徒も散見されるが、来年度は学校独自の手帳を作成し、自律する力を養いたい。(1年) ○e-ポートフォリオの活用を推奨に向け、時間をとって一斉に入力する時間を設けたり、進路課通信「直進」で好事例を紹介したりするなどして、3年次の入試に備えさせた。(1年) ○自然科学の考え方に感銘を受けた生徒が多く、また身の回りで応用されていることを再認識することができ、興味・関心を高めるのに寄与した。(理数) ○研究することの意義や果たす役割など基本的な概念を固めることができ、加えて大学教育のレベルの高さを知ることによって各自の勉学に対する意識を高めることができた。(理数) ●国公立大学医学部医学科受験者4名、難関大受験者14名に止まった。(進路)	・大学入試改革に向けて、組織的に取り組んでいることが見て取れる。特に「e-ポートフォリオ」や「今未来手帳」の活用は評価できる。 ・働き方改革については、業務のスリム化・効率化を図りながら、教育水準の維持に努めてほしい。	・大学入試改革の動向をとらえながら、生徒の進路目標実現に必要な力を身に付けさせる。 ・高等教育機関等との連携を一層強化しながらキャリア教育を充実させ、難関大に挑戦する意欲を喚起する。
4	生徒指導	①基本的な生活習慣を確立させるとともに、本校生としての自覚と誇りを育み、高い規範意識と公共心を養う。	○「我等の心得」に則り、自ら考え、南高生としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動がとれるよう指導する。(1年) ○「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ち、1年生の模範となるよう努める。(2年) ○自己管理と集団生活におけるモラルとマナーを守り、様々な危険について自覚し、信頼される自律した社会人となるよう人間性を育む。(3年) ○南高生としての「誇り」を育成しながら「我等の心得」の意味を理解・意識した生活が送れるよう、自主的で自律した活動を奨励する。(生徒) ○社会のルールと交通ルールを守り、自他の命を大切にすることを育てる。(生徒) ○非行行為の皆無、いじめや盗難のない安心・安全な学校環境づくりのために、生徒自身が自ら取り組み、約束事を守る姿勢とより良い人間関係の育成を図る。(生徒)	・常に南高生であるという自覚を持ちつつ行動できるようになった。(1年) ・年度当初にはトラブルもあったが、学年集会などの指導により、全体として落ち着いた生活を送ることができた。(2年) ・生徒会行事では熱心に活動し、成長がみられた。後輩へもしっかり受け継ぐことができた。(3年) ・社会に貢献できる逞しいリーダーとなるべく、自主的・自律的行動を促し、学校祭等に生徒会主体で取り組んだ。(生徒) ・盗難は0件だが、交通事故件数は昨年度より増加した。大きな事故にはなっていないが今後も0件を目指す。遅刻人数も昨年度より35%増となっている。(生徒) ・いじめ認知から組織的な動き(小委員会等)で対応することができた。また、「いじめ等の保護者対応とコミュニケーション力の充実について」研修を行い、生徒、保護者への対応について役立てることができた。(生徒)	B	○関係各所からのご指導をいただき、南高生としての生活習慣が身に付きつつある。また、教員間の連携がしっかりできたことで、問題を抱える生徒も良い方向に向かっていると捉えている。(1年) ○修学旅行の準備段階からクラス内で配慮ある活動が行われ、それがその後の生活にも生かされた。(2年) ○部活動や各種大会での成果、及び高校生活の充実に良い影響を与えた。(3年) ○全職員との連携充実を図ったことが規範意識向上に繋がった。南高祭の成功はチーム意識を向上させ「誇り」を高めた。(生徒) ○生徒会、各種委員会で、生徒会報「コバルト」を通じて広報しながら活動することができた。(生徒) ●配慮の必要な生徒への指導方法などを、学年、生徒課、保健課と情報を共有して、対応を明確にしていきたい。(生徒)	・南高生は、目標をもって生活しており、礼儀正しい。 ・生徒たちは、生徒会の活動や行事に主体的に取り組むことで成長している様子がみられる。	・「社会のリーダーの育成」という本校の目標実現に向けて、教職員間の連携・協働をより深めて生徒指導にあたる。 ・本校のいじめ防止基本方針に基づき、学校全体でいじめ根絶に取り組む。 ・配慮が必要な生徒に対して適切な支援・指導を行うために、学年・生徒課・保健課の情報共有・連携を進める。
		②自治的な生徒会活動と活発な部活動を推進し、自他を尊重しながら高め合う集団づくりを進める。	○部活動や生徒会活動への積極的参加を促し、自主性と協調性を育てる。(1年) ○部活動や生徒会活動では、積極的に中核となって活躍できるようにする。(2年) ○最高学年として部活動や生徒会活動に積極的に責任を持って取り組み、自主自律の気概と逞しさを育てる。(3年) ○部活動の振興。全国大会出場30名以上を目指す。(生徒) ○スポーツOB会文化部OB会との連携。(生徒) ○高いレベルでの文武両道を目指し教師と生徒が一枚岩となって取り組む。(生徒)	・インターハイには、バレー、陸上、ボクシング、レスリング、自転車競技に出場、そのほか、JOC杯、福井国体、都道府県対抗駅伝など出場、これから全国選抜大会出場予定もあり、全国大会30名以上出場できた。文化部も全国高総文祭に書道部・文芸部が参加し、囲碁部は全国選手権出場、文芸部は俳句甲子園出場、写真部は国際写真サロンU30で入選するなど全国の舞台上で「部活動は学校を元気にする」素晴らしい活躍であった。(生徒)	B	○部活動の活躍が学校を元気にした。(生徒) ●転部した生徒は全体の7%だった。原因はミスマッチだったのか堪え性がないのか判断できないが、今後は継続することの大切さを訴え、本校の核である部活動の振興に尽力させたい。(1年) ●本校の運動(文化)部活動方針のもと、熱心な各部顧問の指導を、より合理的、かつ効果的に取り組んでいく必要がある。(生徒)	・「高いレベルでの文武両道」という本校の伝統を今後とも大事にしてほしい。 ・中学生は本校に魅力を感じ、進学先として選択する者も多い。	・本校の運動部活動方針を周知し、関係者の理解と協力を得ながら、方針に基づいて、部活動に対してより合理的・効果的に取り組む。

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

自 己 評 価				学校関係者評価		次年度 の課題		
NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	達成状況	達成度		成果○と課題●	意見・要望・評価
		③学校全体でいじめ防止に取り組むとともに、読書活動やボランティア活動を通して、自己肯定感や思いやりの心を醸成する。	○生徒の諸活動を把握し、面談や声かけなど細やかな指導を通して、より良い学校生活が送れるよう配慮する。(1・2・3年) ○読書感想文・感想画コンクール、演劇教室を通して豊かな感性を育てる。(図書) ○部活動やクラス単位でボランティアに取り組む活動を学校全体で進めていく。(生徒) ○地域や社会の中で交流する場を積極的に設け、相手を敬う心、優しい心を身につけさせていく。(生徒) ○「いじめ・非行をなくそう」県民運動を踏まえ、生徒会によるスローガン等作成する。(生徒)	・面談週間を活用した二者面談(3回)、教科担任会(2回)。(1年) ・担任によるきめ細やかな面談により、早期にいじめの認知等できた。(2年) ・各担任が熱心に面談等の指導を行った。(3年) ・ボランティア活動については、同窓会からの支援や新たに「大和証券」からの助成金を頂き、一学期に石巻へ復興支援の活動を実施。その様子を学校祭での報告や、支援缶詰等の販売活動など、生徒全体への取り組みへ還元できた。(生徒) ・地元町内会と連携を図り、(独居)老人宅の間口除雪にも、クラス、部活単位取り組んでいるが今年については雪が少なく依頼がない状態である。(生徒) ・「いじめ・非行をなくそう」スローガンを作成したものの生徒会全体にあまり周知、活用できなかった。(生徒) ・読書感想文コンクール県審査で自由図書優良賞1名、読書感想画コンクール県審査で指定読書最優秀1名の入賞者が出た。(図書)	B	○担任が、きめ細かな面談を行い、生徒が自分から悩みを相談するような信頼関係が醸成できた。(1年) ○各担任によるきめ細やかな面談と主任への甲北、学年全体での情報共有というサイクルが機能しており、生徒理解・実態把握に有効であった。(2年) ○面談や細やかな指導により、多くの生徒は落ち着いて生活できた。(3年) ○部活動単位やクラス単位での積極的なボランティア活動は高く評価できる。復興支援だけでなく、地域に目を向け地元密着型の活動ができた。(生徒) ○演劇教室を通して、「生きること」や「働くこと」を考える機会を得た。(図書) ●一部周囲に迷惑をかけた生徒がいた。情報共有と教員が落ち着いて生徒と向き合える時間と場所の確保が必要である。(3年) ●読書感想文は読書意欲の喚起を図るものであるが、感想文の内容に関して改善の余地がある。(図書)	・生徒に対する全体指導と面談などの個別指導の両方が大切である。 ・いじめについては、少数であっても注視してサポートしていかなければならない。	・定期的な面談に加えて、生徒の小さな変化に速やかに対応するために日常的に教職員間の情報共有を行う。 ・生徒の読書活動の活性化を目指し、図書館の活用について工夫を図る。
5	学習環境	①校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備と危機管理・防災体制の充実を図る。	○ゴミを持ち込まない・持ち帰る指導を徹底し、学習に集中できる安全で清潔な環境づくりを進めるとともに、持ち物の自己管理を徹底させる。(1・2・3年・保健) ○毎日の清掃指導と点検、清掃強調週間による徹底を図る。(保健) ○学校事故の皆無、安全点検の徹底を図る。(保健)	・ロッカーの整理整頓(10月以降、1年) ・教室や廊下の環境整備について、担任団のみならず生徒会からの呼びかけや協力によって清潔に保たれていた。(2年) ・全体的には、環境整備はできていた。(3年) ・各学年での指導により、HR教室廊下は綺麗な状態を保つことができた。(保健)	B	○10月以降すべてのクラスでロッカーの整理整頓ができ、私物を廊下に放置しなくなった。(1年) ○保健委員会の円滑な運営によりきめ細かな呼びかけは効果が大きかった。(保健) ○トイレ清掃の啓蒙によりきめ細やかにできるようになった。(保健) ●自己管理のできない生徒が若干見受けられた。日ごろから声かけをして指導すべきである。(3年)	・施設・設備については、アンケートを見ても生徒・保護者からの要望も多く、県の教育行政に働きかけて改善を進めてほしい。	・県との連携や関係団体からの協力により、施設・設備の改善を進める。 ・事故の未然防止と事故発生時に的確な対応が取れるよう安全教育・安全管理の取組を進める。
		②情報通信機器等によるトラブルを未然に防止するとともに、自己管理能力の養成と教育相談の充実により、生徒の心身の健康保持に努める。	○面接週間やホームルームを活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、様々な危険についての自覚を持たせ、事件・事故の未然防止に努める。(1・2・3年) ○教育相談委員会や養護教諭、スクールカウンセラーと協力しながら、疾病を持つ生徒や学校不適応・不登校の生徒に早期に対応し、心身の健康に関する問題の解決に努める。(1・2・3年) ○個人用USBメモリの正しい利用を推進する。(総務) ○南高ブログ、南高ホームページの管理を適切に行う。(総務)	・自転車運転中交通事故にあった件数が非常に多かった。(1年) ・身体的、精神的なサポートを必要とする生徒が例年に比べ多かった。(1年) ・担任によるきめ細やかな面談と主任への報告、学年全体での情報共有というサイクルが機能しており、生徒理解・実態把握に有効であった。(2年) ・交通マナーは比較的良かった。(3年) ・個人用USBメモリーからの情報漏れ等なく、また、ブログ、ホームページへの掲載には注意を払い、特に問題なく運用できた。(総務)	B	○教育相談委員会の活性化(学年・分掌コーディネーターの役割の明確化・外部カウンセラーの利活用)(保健) ●不注意による自動車や歩行者との接触に加え、自爆事故もあった。今後も継続して交通安全を守るよう指導していく必要がある。(1年) ●担任や保健室に負担がかかっている状況にあるので、特定の教員に負担がかかりすぎないように配慮していかなければならない。(1年) ●面談週間の期間や放課後の時間帯だけでは足りず、朝早くや昼休みの時間帯も利用しているので担任の負担が大きい。(2年) ●日常での更なる生徒理解の充実(保健)	・地域と学校が連携して、教育環境の改善に努めていくことが大切である。	・警察や家庭・地域と連携して交通安全指導を進める。 ・不適応傾向の生徒について、学校全体の共通理解の上に、スクールカウンセラーの協力を得ながら組織的対応を進める。